



# 連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局  
Tel 090-4825-7174 <http://renkyoueditor.web.fc2.com/>  
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 380 号

(創刊 1988.12.14)

2021.05.02.

## 「モグるん号」は今何処に？

桂台トンネルを掘削するシールドマシン「モグるん号」(NEXCO 東日本が付けた愛称)は、今年 1 月に上り線を公田方向に向かって発進しました。3 ヶ月以上経過した現在当初説明より工程が遅れているので、NEXCO 東の工事長に進捗状況を問い合わせました。

現状、シールドマシンは立坑から 100m 進み、防音ハウスを少し出た位置で止まっている。マシンの後方に、セグメントと地盤との隙間を充填するコンクリートの圧送装置や、掘削面に気泡液を注入する装置を載せた台車の組み立て接続まで完了した。



マシン位置 (グーグルマップを改変、作図)



左上図形:シールド径 右上図形:トンネル径  
左手前車両と比較ください。

トンネル掘進に併せ、工事用仮囲い堀に「モグるん号」の位置が掲示されていますので通りかかった際には確認してください。  
(ネオポリス・大橋)

## 釜利谷開口部の公害対策を要請

2020 年 10 月、連協との質問回答会議で NEXCO 東は、横環南線の大気汚染公害について従来からの発表を覆し、驚くべき発表を行った(連協ニュース 374 号で既報)。

それによれば、何の処理装置もない釜利谷開口部から全体の 38%の NOX が排出されるとの事である。(ニュース 379 号参照)。

このため、庄戸 3 丁目町会では 3 月 9 日、国土交通省、NEXCO 東日本、横浜市に対し、下記の通り釜利谷開口部からの排気ガス処理の要請文を送致した。

タイトル: 釜利谷開口部からの排気ガス  
処理のお願い

発送者 : 庄戸 3 丁目町会長

内容 :

- (1) 2020 年 10 月 20 日 NEXCO 東は従来の発表を変更し、釜利谷開口部から大量の排気ガスが発生すると発表した。
- (2) 釜利谷開口部での NOX の排出量は全体の 38%にあたる 17,428g/日。
- (3) 最大の排気量があるにも拘わらず釜利谷では、何の排ガス処理も行われていない。
- (4) NEXCO 東は、NOX の予測のみ発表し、SPM、騒音、振動、など公害全体の予測評価をしていない。
- (5) 上記の様な状況は、将来の庄戸の住環境の悪化が懸念される。
- (6) 釜利谷開口部に換気所などの抜本的対策または蓋掛けなどを強く要請する。  
(庄戸 3 丁目 田中克己)

## 北海道新幹線

### トンネル工事で崩落事故

3月20日、北海道新幹線トンネル工事現場で崩落事故が発生しました。事故の内容は、朝8時過ぎに切羽付近の吹付けコンクリートに剥落や変状が発生。その後7時間経過時点で支保工の鋼材が倒壊して、3,000 m<sup>3</sup>の土砂がトンネル内に流入したというものです。



(八雲町内の野田追トンネル Yahoo News)

このトンネルは NATM 工法で施工されており、基本的には周囲の地山内部の摩擦力で形状を維持しています。支保工、吹付けコンクリートは、掘削面の緩みとそれによる崩壊を防ぐために施工します。今回の事故の原因究明はまだですが、部分的に応力が集中すると支保工や吹付けコンクリートでは支えきれないことが判ります。

更に鉄道・運輸機構は3月26日、北海道新幹線野田追（のだおい）トンネル北工区での崩落について、地上部で直径20メートルのすり鉢状の陥没を確認したと発表しました。

庄戸トンネルは同じ NATM 工法で施工されています。しかし、分合流区間の大断面トンネルは扁平率が大きく低土被りであることから地山と支保工だけで荷重を保持するのではなく、厚さ70cmの覆工コンクリートにもすべての荷重を保持させる設計になっています。今後上下線のトンネルが近接して掘削されれば土圧に変化が生じ、トンネル崩壊の大事故を引き起こす虞があります。

2018年(平成30年)1月20日に国交大臣、NEXCO 東社長、横浜市長の三者宛に「沿線住民の安全を脅かす施工計画の是正を(要請)」を出しています。

本格的に工事が始まるに当たり、今一度要請する必要があります。(ネオポリス H.O)

### 道路全国連幹事会報告

道路全国連交流集会は毎年秋に開催されていますが、昨年はコロナ禍の中開催を中止しました。今年はどうするか、4月29日にリモートで全国連の幹事が集まり今後の方針を協議しましたので報告します。

この準備のため毎年の名古屋での幹事会は中止し、リモート会議で代行することとしました。その際、リアル会議を優先するが止むを得ない状況を考慮し念のため11月13,14日東京経済大学の会場を押さえておくが、リモート開催を中心に準備する。そして各地での少数参加のリアル開催をリモートでつなぐハイブリット開催とすることとしました。

又各地から道路運動活動報告があり、連協からは「コロナ禍にも拘らず毎月定例会議を開催し連協道路ニュースも欠かさず発行している」と報告しました。経過報告として外環と同じように15m径のシールドマシンが発進し始めたこと、また事業者とは発足当時から構築している「事業を進めるにあたった住民との合意が不可欠である」の趣旨を前面に対峙し、非常駐車帯計画を断念させたことや市議会の請願に基づく脱硝装置の設置要求、さらに町会決議による山間部の排気ガス箇所への蓋掛け要請などを報告しました。(比留間)

### 対外活動報告

- 04/01 リニア新幹線を考える会相模原連絡会との懇談(於:橋本公民館、会長)
- 04/10 大深度シンポジウム(東京外環オンライン発表会、会長)
- 04/26 区政推進課訪問(環境部長、会長)
- 04/29 全国道路連幹事会(オンライン会議、会長)